

新年のごあいさつ



金ヶ崎町長 高橋 由一

新

年あけましておめでとうございます。本年が町民の皆さまにとりまして希望溢れる年となりますことをご祈念申し上げます。また、昨年中は町政運営に對しましてご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

金ヶ崎町は、昨年は生涯教育の町宣言40周年の年でありました。令和2年は町民憲章制定50周年の年を迎えます。この記念すべき年は干支で言えば子年で、始まりの年です。令和2年は、金ヶ崎町にとって新しい時代への新しい対応をしなければならぬ年と考えております。今まで、町民の皆さまからいただいていた大きな力を糧として、持続可能な自立の町として、自分たちの力でまちづくりをするという主体性と情熱をもって町政運営に取り組んでいきます。その土台には、町民憲章があります。これを大事にして将来を展望しながら、人口減少・高齢化社会の中で住みよいまちづくりを進めていきます。

今年、第十次総合発展計画の締めくくりにあつた。若

災害時の応援支援体制について企業・団体・関係機関の皆さまにも力をいただきながら進め、防災力の強化を進めていきます。金ヶ崎町は、健康で豊かに暮らせる町として元氣100歳運動をこれからも継続し、年をとっても元氣で明るいまちづくりに取り組んでいきます。また、これからのまちづくりの基本となる産業振興の一つとして、農業については、稲作にプラスした収益性の高い園芸作物の導入の検討、畜産に対する支援など農家の所得向上に努めていきます。そのためには、基盤整備が進まないと後継者問題も生産拡大も進まないと思っております。町財政として厳しい状況下であります。基盤整備事業は計画的に進めていきます。

二つ目に、企業誘致と生産拡大、商業振興・観光事業など総合的な産業振興の充実も図っていきます。そのためには、産業振興と一体化して道路行政も進めなければ

者が暮らしたいまちを創る」「女性にとって魅力的なまちを創る」「活力と特色のある地域を創る」の3つを柱として将来が明るい町を目指し取り組みを進めていきます。昨年12月、金ヶ崎町では社会的要因で人口増となりました。しかし、出生・死亡の関係の自然的要因の人口減は課題となっております。若い人たちの町、元氣な町と言われるように人口減少への対応もしっかりと取り組んでいきます。

また、昨年の台風19号など頻発する災害への対応も大きな課題となっております。いつ何が起きるか予測できない状況の中、「自分たちの地域を自分たちで守る」という意識で災害時に迅速な対応をとれるよう、自主防災組織の育成、消防団が総合力を発揮できる体制と整備力の強化を進めていきます。整備の面では、今年で昭和時代からの屯所、ポンプ車の更新が終わりますが、新たな課題として水防力強化が求められておりますので、引き続き防災に対する地域との協働を一層図っていきます。また、消防団の応援事業や

さらに、持続可能なまちづくりのために子育て環境の更なる充実と高齢者が地域で安心して暮らせるネットワークづくりを強化していきます。これらを総括して、地域共生社会の建設を目指し、今まで取り組んできた事業を生かしながら進めていきます。その他、オリンピックキヤーである今年、関係交流人口拡大に向けた発信も行っていきたいと考えています。金ヶ崎町は、今後も皆さまとともに持続可能で自立したまちづくりを進めてまいりますので、皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。

※新年交賀会町長あいさつの要旨を掲載

写真・和光地区から見る日の出

令和元年 金ヶ崎町 十大 ニュース

平成31年1月から令和元年12月までに町内で起きた印象的な出来事を金ヶ崎町十大ニュースとしてお知らせします。

1 生涯教育の町宣言40周年記念大会、記念事業の開催



2 台風19号により町内でも被害多数発生



3 第78回一関・盛岡間駅伝競走大会で金ヶ崎チームが歴代最高の4位入賞

4 待機児童解消に向け小規模保育園開園、南方幼稚園増改築始まる

5 町有地に大規模従業員寮新設工事着工、トヨタ・コンパクト車の生産集約化

6 下水道事業経営の安定を目指し、下水道・農業集落排水使用料金は12年ぶり、浄化槽使用料金は16年ぶりの改定が決定

7 介護予防の取り組みにより要介護認定率県内最低ラインを維持

8 全国町村議会広報コンクールで14年連続入賞に輝く

9 田園環境保全の町宣言20周年記念事業開催、ドイツライネフェルデ市50周年記念式典へ公式訪問団派遣

10 ふるさとCM大賞in I W A T E 金賞受賞